

お正月三が日は暖かく寒がり屋の私としては内心ほくそえんでいたところ、11日には20センチの積雪。さすがに大寒らしい寒さの到来となりましたが暦では節分、恵方巻のチラシに春遠からずを感じる時季となりました。

毎年のことですが、この時期は新年度予算案策定の作業に追われる時期です。人件費の上昇や物価高の影響により工事費や外部への委託費などが前年度より大幅に上昇しており、当初見積もりにおける歳入と歳出の差額に驚愕(きょうがく)して作業に当たっております。人員の削減や補助金の見直しなどをお願いしなくては当初予算が組めない状況ですが、プラス材料もあります。

その一つは「ふるさと納税」です。村のふるさと納税の寄附額については、令和6年度約1億4千万円でしたので7年度の目標額を2億円にしておりましたが、令和7年12月末で2億8百万円を達成しました。返礼品などの費用50%を引いても、1億円の一般財源を確保することになります。多額の寄附をお寄せいただいた皆様に心から感謝申し上げ、ご寄附頂いた大切な財源を有効に活用してまいります。

二つめは、物価高騰対策の交付金が約6千3百万円ほど交付されることが決まり、7年度と8年度にわたり財源として活用できることになりました。2月3日に開催予定の臨時議会で決定していただき、3月までには皆様のお手元に“商品券で配布”の生活支援策を実施する予定で作業を進めてまいります。

そんな多忙な毎日の中に飛び込んできた衆議院の通常国会冒頭の解散・総選挙の報。政局よりも新年度予算成立が国民の望むところというご意見もありますが、決まった以上は粛々と選挙事務を進めなくてはならないと考えております。

さて、最近よく見聞きしますのは「日本らしさとは何か」ということです。西洋列強が日本を植民地にしたかった時代に、日本人の美德ともいえる礼節を尊ぶことや識字率の高さを目の当たりにして、植民地化をあきらめたという話に表されているのではないのでしょうか。混沌とし、緊張を増す国際情勢の現代。昭和生まれの私には“昭和は遠くなりけり”の感が強い昨今ですが、兼好法師ならずとも先達に学ぶ必要性もあるのではないかと強く感じております。

インフルエンザも流行していますので、皆様健康維持に留意いただきつつ春の息吹を待ちたいと思っています。

令和8年2月

東白川村長 今井俊郎